



発行人◎高田かつ子 編集人◎青山富士夫 事務局◎〒211 川崎市幸区小倉1-1, I-514 下山昌孝方 TEL 044-522-4185

古田武彦氏新春講演会

# 矢印はどちらを指すか

堯・舜の中国と縄文の日本列島

一月十四日午後、恒例の本会主催古田武彦氏新春講演会が文京区民センターで行われた。会場に溢れる三百名の参加者を前に、今回は、日本列島の縄文文明が、中国の古代文明の形成に、何らかの影響を及ぼしたのではないかと、従来の学界通念から見れば驚くべき提言がなされた。以下その講演の要旨。

## 東京を離れる挨拶

お休みのところを私の話をお聞きに、会場に溢れるほどおいで下さいましてありがとうございます。今回はとくに、今年三月を以て昭和薬科大学を定年退職して京都に移転することになりましたので、東京に居て東京の方に講演するのはこれが最後になるのではないかと思います。その点とくに感慨深いものがあります。

昭和薬科大学から招かれました時には大変緊張して「迷った」といってもいいでしょう。今まで通り文字通りの在野でおるべきか、大学の教師の座に就くか—その点こちらに来る

決断をいたしましたのは、私が関東・東北について余りにも知らない、生まれは会津の喜多方で大学は仙台でしたが、あまり接する時間がなく、知らない事が余りにも多い、その点東京に住めば分かることがあるんじゃないかという期待があったのです。その期待は思いがけない私の予想を遥かに上回る形で実現されました。例えばこの「和田家文書」、東京にいたからこそしばしば青森に通うことができ、和田喜八郎さんも上京のたびに訪ねて来る事が可能でした。また関東を去る時になって驚天動地の発見がありました。これは後半にお話いたします。これは皆「多元的古代」研究会・関東の皆様のおかげ、東京古田会その他の方々のおかげ

であり、また儀礼的な文句ではなく、本気で申すのですが、昭和薬科大学のおかげだと思えます。在職十二年間、全く自由に、何等の制肘を加えられないことがありませんでした。稀有のことと感謝しております。

## リスクを冒す

最近テレビで経済問題の討論会を見まして、野村総合研究所の鈴木徹夫さんという方が、「今の経済が良くなつていく可能性はあるけれど、足らないものがある。それは経済人がリスクを冒す勇気を持っていないことだ。本来経済活動とはしっかりと見通しの上に立ってリスクを冒す事がなければ、本当の活力は出て来ないのだ」ということを言われました。私は経済は素人ですが「良いことを言われるな」と思って聞いていました。同じように、学問の世界・歴史学の世界で、リスクを冒すことがなくなつたらその学問は進展しないと言っているでしょう。定説や通説の上に乗ってその範囲内で研究するというのでは、それだけしかやらないようでは、その学問は大局的に停滞の一途を辿るようになります。

定説・通念を尊重し研究した上